

Reading

読書の秋

唐の韓愈(かんゆ、768～824)の詩「符読書城南」に「燈火可親(灯火親しむべし)」とあり、これは、さわやかでしのぎやすい秋の夜長は、あかりの下で書を読むのに最も適している、と解されている。確かに暑くも寒くもない秋は、本の内容も頭に入りやすいし、本を読むのに適した気温もこの時季が良いということもあるようだ。20世紀の初め、1910～20年代に夏目漱石が小説のなかでこの詩にふれたり、新聞が「読書の秋」と記事にしたりとあったらしいが、一般的に広がったのは、1947年(昭和22)11月17日に第一回「読書週間」が開催されてからのことである。

・trivia・

「～の秋」の由来

秋になると定型的にメディアに現れる「～の秋」。何に由来し、いつごろから言い出したのか。



食欲の秋

「実りの秋」と言われるように秋は収穫の季節で、米を始め野菜や果実等いろいろなものが豊富にとれるから。冬に備えてエネルギーを蓄えようと体脂肪をため込む動物的な本能もあるのかも…。今は栽培技術や輸送手段が発達し、旬のものが分りづらくなっているが、「食欲の秋だから」と刷り込まれて何でもおいしく感じてしまうようだ。



芸術の秋

1918年(大正7)雑誌「新潮」が「美術の秋」というフレーズを使う。俳句の季語にも採用されたが、それ以前に歳時記には「芸術祭」が秋の季語にとられていた。二科展、日展、院展などの美術公募展が秋に開催されていることもある。



スポーツの秋

やはり涼しいこの季節は、身体を動かすに最適であるが、「スポーツの秋」と表現されるようになったのは、東京オリンピックが開催されてから。開会式は、1964年(昭和39)10月10日、まさに秋のこと。もともと農作業が一段落した後、運動会がこの時季に行われていたことや、10月10日が「体育の日」と制定、国民の祝日とされたこともあって、ますますスポーツをする傾向が高まったようである。

言葉の葉ひらり

同音異義語・同訓異義語の使い分け、似た言葉で間違いやすい使い方等、校正中これでもいいのかともややした気持ちで仕事を進めると後味が悪い。調べると宙に舞っていた言葉の意味がひらりと掌に落ちて、すっきりする。

「あいさつ」って、どんな意味なんだろう？

あいさつは、漢字で書くと、「挨拶」。

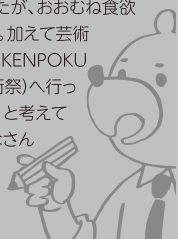
「挨拶」は、もともと「せまる」「打つ」「押す」という意味を持っており、「拶」は、「近づく」「進む」という意味を持っている。



「挨拶」は本来、「そばに身をすりよせて押しあうこと」を表す熟語であり、中世に日本に輸入された漢語で、禅宗において僧が問答を繰り返すことを言った。それが転じて日本語では、「人に会ったり別れたりするとき取り交わす言葉や動作」を意味するようになった語である。「挨拶」は、心の扉を叩いて押し開き、相手に近づくということである。

タムメ

すっかり秋めいてきましたね。芸術の秋、読書の秋、食欲の秋、スポーツの秋。じぶんは何の秋かな…と考えましたが、おおむね食欲の秋かと思えます。加えて芸術の秋といたしまして、KENPOKU 2016(茨城県北芸術祭)へ行っアートを触れよう！と考えているところです。みなさんは今年の秋をどんな秋にしたいですか？(デザイン部 田村)



10月歳時記

- 1日(土) 衣替え …………… これからお世話になる衣服だけでなく、これまでお世話になった衣服の汚れをしっかりと落とすことのほうが重要(「東京都クリーニング生活衛生同業組合」HPより)
- 8日(土) 寒露(かんろ) …………… 空気が澄んで夜空が美しい
- 10日(月) 体育の日 …………… 制定から丁度50年め(1964年の東京オリンピックを記念して、2年後に制定)
- 13日(木) 十三夜 …………… 旧暦の9月13日。十五夜は中国から伝わったものであるが、十三夜は日本独自の風習。秋の収穫祭の一つとの説がある
- 20日(木) 秋土用入り …………… 立冬(11月7日)前の約18日間が、秋の土用
- 23日(日) 霜降(そうこう) …………… そろそろ初霜の便りが届く
- 27日(木) 文字・活字文化の日 …………… この日から11月9日(水)までが読書週間(文化の日を中心とした2週間)。今年で70回め、標語は「いざ、読書。」

寒露から霜降までの七十二候

「七十二候」とは、二十四節気を更に三つの時期に分けたもので、短い言葉でその時の特徴を表した、日本独自の暦。

- 鴻雁来 「こうがん、きたる」 雁が北から渡ってくる。
- 菊花開 「きくのはな、ひらく」 菊の花が咲き始める。
- 蟋蟀在戸 「きりぎりす、とにあり」 昔はコオロギのことをキリギリスといったとの説あり。秋の虫が鳴くころ。

鹿沼市 秋まつり かつ散歩 vol.05

「彫刻屋台」や「ぶっつけ」の名で有名な鹿沼秋まつり。はじめての秋まつりは7年くらい前かな。提灯に灯をともした夕方からの「繰り出し」が好きです。お囃子の音色や屋台を先導する伝統衣装に身をつつんだ「手古舞」の少女たちも頑張っています。



鹿沼秋まつり 10月8日(土)・9日(日)開催
ぜひお越しください。http://www.butsuke.com